

校内研修用指導案（美術科）

令和5年1月25日（水）5時間目

授業者：教諭 濱地文恵

生徒：2年C組（34名）

場所：美術室

1. 単元構成・計画

教科名	美術科	学年	2年	時期	12～2月
題材名	視点の冒険～新鮮な見方で函館の名所絵を描く				
目 標	知識及び技能 (知)【1】	普段と違った視点から身近な風景を見つめ、感じ取ったイメージから主題を生み出す。			
	知識及び技能 (知)【2】	浮世絵の構図や色彩がもたらす効果や、線、彫り、摺りなどの特徴を基に、作風で捉える。			
	知識及び技能 (技)	主題を基に、絵の具やステンシルなどの特性を生かし、表現方法を追求しながら表現する。			
	思考力、判断力、表現力等 (発)	見慣れた風景を視点の位置を変えて見つめ、単純化や強調、創造的な構成を工夫し、表現の構想を練る。			
	思考力、判断力、表現力等 (鑑)	浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造性の工夫などについて考え、美意識を高め、見方や感じ方を深める。			
	学びに向かう力、人間性等 (態表)	視点の違いや構図の工夫による造形的なよさや美しさ、イメージの変化を感じ取り表現する。			
	学びに向かう力、人間性等 (態鑑)	お互いの作品を鑑賞し合い、視点を変えることの面白さを味わい、表現方法の工夫などを話し合う。			
評 価	評価の観点	評価規準	評価材料		
	知識・技能 (知)【1】	見上げる、見下ろす、近づくなど、視点による見え方の違いによる印象の変化を全体のイメージで捉え、感じ取ったイメージから主題を生み出している。	●ワークシート1 ①ワークシート2		
	知識・技能 (知)【2】	浮世絵の構図や色彩がもたらす効果や、線、彫り、摺りなどの特徴を基に、作風で捉えている。	① C B T		
	知識・技能 (技)	絵の具やステンシルなどの特性を生かし、意図に応じて表現方法を追求しながら表現している。	①作品		
	思考・判断・表現 (発)	視点の違いや構図の工夫によるイメージの変化を基に主題を生み出し、構図などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	●ワークシート1 ①ワークシート2 ②作品		
	思考・判断・表現 (鑑)	浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造性の工夫などについて考え、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	①観察		
主体的に学習に取り組む態度 (態表)	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に視点の違いによるイメージの変化から構想を練ったり、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。		①観察		

	主体的に学習に取り組む態度 (態鑑)	お互いの作品を鑑賞し合い、作者の心情や表現の意図と造形的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深め、それぞれの表現について話し合っている。	①観察 (班活動)		
指導計画		評価計画			
時数	指導内容	知	思	主	
1	オリエンテーション (題材についての説明) ・学級としての作品テーマを決定 ・各班のテーマを決定 ・視点の冒険を意識して、構図を工夫し、アイディアスケッチをする	(知) 【1】 ●	(発) ●	(態鑑) ①	
2	歌川広重『名所江戸百景』の特徴的な構図を学ぶ ・Google フォーム		(鑑) ①		
3	『名所江戸百景』の構図を参考に新たな構図を考える	(知)	(発)		
4 (本)	・歌川広重『名所江戸百景』に関するC B T (前回の学習の振り返り) ・浮世絵の特徴的な構図を参考に、作品の視点を工夫する	【2】 ①	①		
5	ステンシル版画の作成				
6	・下絵を描き、配色を考える	(技)	(発)	(態表)	
7	・カッターで版を切り抜く	①	②	①	
8	・ポスターカラーで色を付ける				

※○主に評定に用いる評価 ●主に学習改善につなげる評価

2. 本単元におけるC B TおよびGoogle フォームの活用場面について

1	授業内で、前時の内容に関するC B Tを実施する (評定に用いる評価)。生徒の解答結果の状況に応じて、前時の内容の補足の説明を行う。また、C B Tを行うことで、構図の特徴をより意識させ、今後の作品制作に生かす (即時性・学習改善につなげる評価)。
---	--

3. 本時案（4／8）

(1) 本時の目標		
知識及び技能 (知)【2】	浮世絵の構図や色彩がもたらす効果や、線、彫り、摺りなどの特徴を基に、作風で捉えることを理解する。	
思考力、判断力、表現力等 (発)【1】	見慣れた風景を視点の位置を変えて見つめ、感じ取った新鮮な感動から主題を生み出し単純化や強調、創造的な構成を工夫し、表現の構想を練る。	
(2) 学習の展開		
学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点 ●・○評価の方法
1. 前時学習内容の復習 ・ワークシート1 ・ワークシート2	1. 生徒の作業状況を把握し、補足の説明等を行う。	
2. 班にする	2. 班にするように指示を出す。	
本時の課題：ステンシルのデザインを決定する（ワークシート2完成）		
3. 目標の確認 ・視点を工夫する ・浮世絵を参考に構図を工夫する	3. 目標を確認させる。 (黒板に記入済み)	
4. ワークシート2にデザインを描く (前回の続き) ・クロムブックの使用可能 (参考写真, Google フォームでの浮世絵の確認) ・班で相談可能 (作品についての交流)	4. ワークシート2のデザインを描くように指示する。 完成度が高い作品があれば、随時紹介する。 早くデザインが決まった生徒がいた場合は、配色を考えるように指示を出す。	(知)【2】① (発)①
5. 次の作業の説明	5. 次の作業の説明をする (※多くの生徒がデザイン画を完成している場合は、早めに説明、ステンシルの下絵を描く作業をさせる)	
6. 振り返り、次回の持ち物等の確認	6. 授業の振り返りをし、次回の持ち物を確認する。(黒板)	
(3) 主に学習改善につなげる評価と改善の手だて		
知識・技能 (知)【2】 ※前時学習内容	C (手だて)	C B T ・実施者全体の正答率を踏まえ、学級全体に補足の説明を行う。
(4) 主に評定に用いる評価と改善の手だて		
知識・技能 (知)【2】	A	浮世絵の構図や色彩がもたらす効果や、線、彫り、摺りなどの特徴を基に、作風で捉えることを理解し、自分の作品の中に表現として取り入れようとしている。
	B	浮世絵の構図や色彩がもたらす効果や、線、彫り、摺りなどの特徴を基に、作風で捉えることを理解している。
	C (手だて)	浮世絵の構図の特徴を理解できていない。 手だて：浮世絵の構図を Google フォームから確認し、その特徴を個別指導する。

思考・判断・表現 (発)【1】	A	視点の違いや構図の工夫によるイメージの変化を基に主題を生み出し、浮世絵の構図などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、明確な意図をもって構想を練っている。
	B	視点の違いや構図の工夫によるイメージの変化を基に主題を生み出し、構図などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、構想を練っている。
	C (手だて)	ワークシート1の構図から、デザインの変化が見られない。 手だて：描きたい名所を確認し、さらに描きたいポイントを確認する。浮世絵の構図をGoogleフォームから確認し、参考になりそうなものをアドバイスする。場合に応じて、別の用紙に簡単な見本を描くなど技術面でもサポートする。